

令和 6 年度

久米田看護専門学校
学校関係者評価委員会（議事録）

日 時：令和 6 年 9 月 26 日（木）
13 時 30 分～14 時 30 分
場 所：久米田看護専門学校
会議室

議題

はじめに、本日の議事進行あいさつ

1. 開会あいさつ

※利田学校長より、挨拶

2. 学校運営（学校の状況等）の報告

初めに資料の確認をお願いします。

レジメと委員会名簿と資料 1 の学生状況をクリップ

資料 2～資料 4 まではホッチキス止めをしている。

それでは、進めていきたいと思いますが、本日元岸和田市教育委員長の樋口さんが、地域の福祉部の部長さんになられたので、本日会議が重なり欠席しています。

まずはじめに

【資料 1】からの説明をさせていただきます。

これは今年度の学年別学生情報になります。

各学年のクラス状況として、男女比の表をご覧ください。

1 年生は、33 名の入学と昨年休学していた学生で 34 名のクラスです。

2 年生は、39 名で男子学生が 9 名いる。

3 年生は、34 名で合計 107 名でスタートしています。

2 番目の入学時年齢別では、ここ最近の傾向として、入学時年齢が、社会人が少なく新卒者が多いこともあり、平均年齢 19.5 歳前後である。

3 番目の住所地別では、他府県はなし、大阪市が 1 名、堺市が 4 名で他は、この泉州地域になっている。

<各専門学校学生の定員数の問題と教員の不足>

・大学の看護学部が増え、専門学校への入学生が定員割れをしている。これはどこの専門学校にも言える傾向で、

対策：各学校での特性をアピールしたり、専門学校の良さをアピールする必要性と、高校などへの進学説明会（大阪も地区別にしてはどうか）大阪府看護学校協議会でも話し合っている。

<本校の定員数について>

- ・令和4年度からの学生状況（入学生の状況）としては、定数に満たない現状が続いている。最近の傾向として、新卒の学生が多く、社会人が少ない。
- ・新卒者の授業態度が悪く（居眠り・私語）などの問題があり、講師からの苦情も多くなっている。
- ・仲間づくりが不得手であり、保護者を通じて学生間の問題を学校側に指導を要請し、学生間では解決が困難で学校に行きたくないなどの問題が発生している。
- ・社会人からは、グループワークなど新卒の学生は「わからない」とワークの中に入ろうとしない。

<教員の不足>

対策として、教員の継続教育や領域別の学習会などを日本看護学校協議会が開催している。教員の不足に対しては、教員に興味・関心のある方は、その近隣の学校で見学や教員体験等ができるようにする。

<本校の教員について>

- ・本校は、教員不足はないが、学生との関係性での面接や体調不良に伴うサポートに時間をつぎやしている。
- ・各実習施設での指導が多岐にわたっているため、専門性の指導が難しい。
- ・学生の知識レベルの低下や学生との関係性などの問題で教員が疲弊している。
- ・学生の学習に取り組む姿勢や態度が、稚拙で指導にも功を奏しない。

<本校の対策とその状況>

- ・学生の定数確保のため、学校見学会の回数を増やし、学校説明会にも参している。学校説明会も泉南地域から南大阪地域にも説明を増やす。
- ・入学時の小論文の試験を廃止し、受験者数の増員を図るねらいである。
- ・スマホの学校内での使用禁止を撤廃するようにした。

3. 定期指導調査の報告（令和6年4月からの運用）

※前回、平成23年11月2日に近畿厚生局の定期指導調査から12年ぶりに行われた。今回は、大阪府の医療対策課の調査であったが、今回も新カリキュラムと旧カリキュラムが入り混じった調査となった。ただ、新規の病院の実習施設変更の書類の準備や新カリキュラムの申請もあり、書類など見直しをしていた時期もあり、比較的早くからの準備ができていたことで、円滑な調査を迎えることができたように思う。

※指導調査の指導内容

- ①職員や学生を対象にしたハラスメント対策の規程の作成
- ②教務日誌の管理者の押印
- ③自己点検・自己評価委員会の開催回数などについての指導
- ④既修得科目の単位認定に関する規程の条文の変更の指導
- ⑤教員の履歴など記載の誤りの指導

4. 自己点検・自己評価の状況報告

※昨年度との比較した内容を含めた報告とする。

5. 卒業生について

※昨年度との比較と卒業生の動向について

6. その他

※新カリキュラムの導入が3年を迎え、前回樋口さんから質問があった「新カリのコミュニケーション力」は、「どんなところで能力を養っていくのか」という質問どのようなことを考えているか。

※自己理解ができるように、カウンセリング論などの授業を行っているが、教員が学生に何らかの指導をすると、素直に自分の問題に目を向けずに、他者への不満などふてぶてしい傾向がみられる。

自己の振り返るをするように指導していくためには、実習でのその時その場の機会教育が、やはり一番効果的のように思う。特に患者さんという相手のことを考えることができるのも、実習場面での指導が一番効果的のように思う。学校で指導してもなかなかイメージができないこともあり、指導での教員と学生のずれがある傾向である。

次回開催予定：令和7年9月

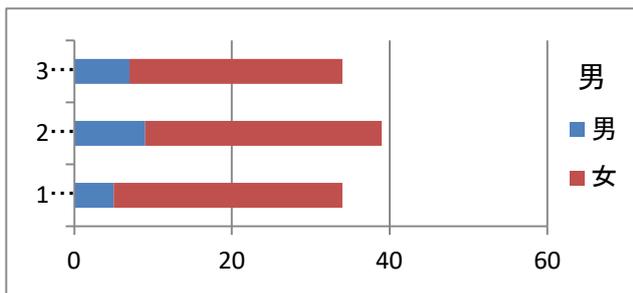
令和6年度 学年別学生情報

1. 男女比 令和6年4月現在

	1年生	2年生	3年生	総計	
男	5	9	7	21	16.9%
女	29	30	27	86	83.1%
計	34	39	34	107	100%

※1年生に休学者1名が入る

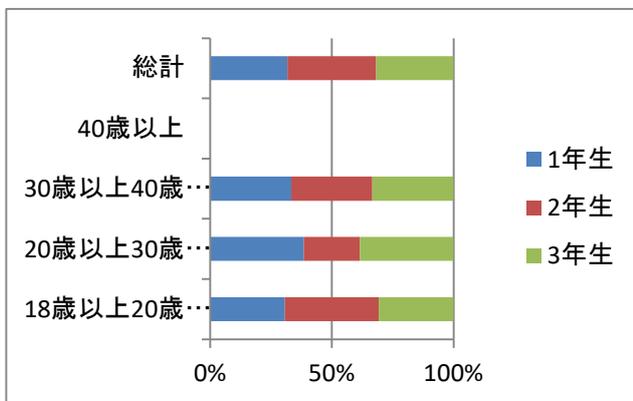
男女比



2. 入学時年齢別

	1年生	2年生	3年生	総計	
18歳以上20歳未満	27	34	27	88	64.3%
20歳以上30歳未満	5	3	5	13	18.6%
30歳以上40歳未満	2	2	2	6	13.6%
40歳以上				0	3.5%
総計	34	39	34	107	休学5名
平均年齢	19.9	19.5	19.5	19.6	入学時

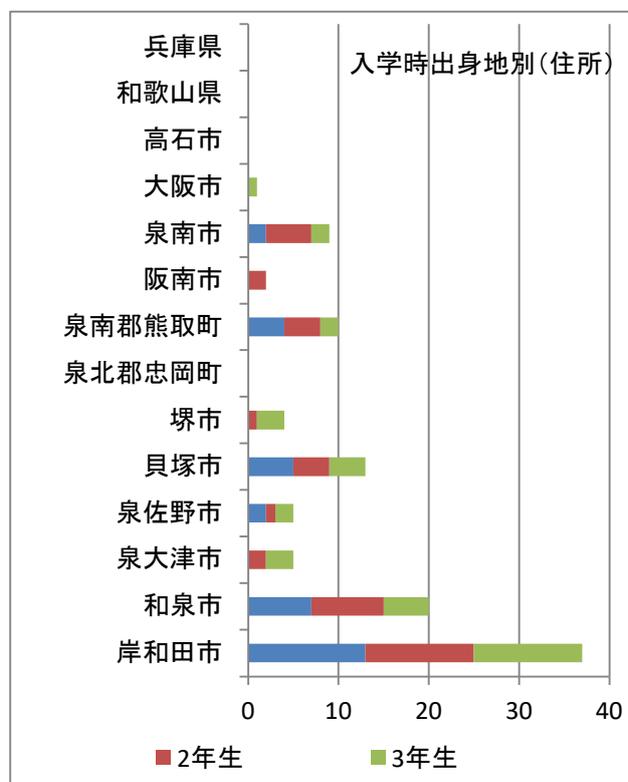
※1年生に休学者1名が入る



3. 住所地別

住所地	1年生	2年生	3年生	総計	
岸和田市	13	12	12	37	37.3
和泉市	7	8	5	20	15.8
泉大津市		2	3	5	6.8
泉佐野市	2	1	2	5	10.1
貝塚市	5	4	4	13	9
堺市		1	3	4	6.8
泉北郡忠岡町				0	1.1
泉南郡熊取町	4	4	2	10	4.5
阪南市		2		2	12.4
泉南市	2	5	2	9	10.1
大阪市			1	1	4.5
高石市					
和歌山県				0	6.8
兵庫県					
総計	34	39	34	107	入学時

※1年生に休学者1名が入る



令和6年度 学校関係者評価委員会

1. 学校評価の目的

- (1) 学校評価を通じた組織的、継続的な教育活動の改善
- (2) 地域連携・協力による特色のある学校づくりの推進

2. 令和6年の取り組み

(1) 学校評価を通じた組織的、継続的な教育活動の改善

令和6年1月26日に大阪府健康医療部保健医療室医療対策課による定期指導調査があった。この定期指導調査の準備で学校運営に係る書類の整理や学校環境の整備などによって、教育活動の実態を教職員それぞれが把握していくことができた。また、教育活動を行う中での改善することなど、指導を受けることでさらに深めることができたと考える。

定期指導調査の結果、①ハラスメントの催促を明確にすること。②関係者評価委員会と自己点検委員会の回数に齟齬があるので修正すること。③教務日誌の押印を確実にすること。④既習科目の単位認定に関する規程の方の期日変更の指導。⑤教員御履歴の誤りの修正すること。

学内実習に向けての別表9の実習室の教材などは、指導調査の方から褒めていただくことができた。また、財務についても問題なく調査を受けることができた。

以上のことから、現在大きな教育活動の改善命令がなく調査を終えた。

(2) 地域連携・協力による特色のある学校づくりの推進

これは7月22日、南大阪の血液センターから、1・2年生を対象に血液についてのセミナーを実施していただいた。また、献血運動にも22名の献血の実施をすることができた。当校は、毎年大阪府赤十字血液センターから献血車で学校に来ていただき、学生がボランティアとしての活動の一環で実施している。この活動は医療従事者としての地域社会への貢献にもなり、敷いては人の命を救うという活動でもある。

今後もこのような地域活動ができる特色のある学校づくりを目指していきたいと思う。

(3) 新カリキュラムのスムーズな導入

今年度が3年目になるので、3年間の全過程が終了する年である。現在のところで評価すると、多職種の方の役割などの講義を受けて、実習に臨んでいることもあり、多職種への関心があることで、実習評価にも功を奏しているように思う。

カウンセリング論などで自己洞察できる期待があるが、コミュニケーションや仲間づくりでは、課題があるような状況である。特に、コミュニケーション力を高めるカリキュラムであるが、卒業時まで見ていくことで、1年からの変化などで評価する必要がある。

(4) 学生募集・広報活動

ここ数年、学生の受験者数も激減し、定員を満たすことが困難な状況にある。今年は、学校見学会を6月から始め、回数を増やし行った。また、河内長野方面の高校説明会にも参加し、受験者数を増やすような働きを行った。さらに、試験科目の中に小論文があり、当校への志願者は、論文を書くのが苦手という学生も多く、少しでも受験者を増やすことを中心に考えた策略とした。

(5) 教育・サービス

昨年まで禁止していたスマホの学校での使用を解禁した。卒業生の多くの意見として、学校内でのスマホの使用は認めてあげてほしいという内容が多くあった。そこで、スマホ解禁にしたが、授業中に無断で2名が使用したこともあり、謹慎処分となった。

ただ、不用意な使用があるので、常に使用についての指導を行っている現状である。国家試験の合格率は91%であり、国会試験宅策を速めてはどうかということで、今年度実施している。

(6) 新しい実習施設導入の取り組み

国立大阪南医療センターへの実習では、2日間の実習施設見学、受け持ち患者の看護過程の展開の実習等、当校のはじめての受け入れの中で積極的に指導者の方も指導していただいている。後期は統合実習もあるので、教員も指導者との連携を図りながら進めていけるようにする。

泉大津への母性の実習は、来年7年からになる、今年は府中病院で3日間を全員が実習体験できる環境でお世話になり、学生は一生懸命実習指導を受けていた。他の岸和田市保健センターでのパパママ教室や地域の子どもサロンでの実習を行った。

樋口さんからは、とてもいいかわりをしていただいたということを知ったのでぜひ今日伝えたかったということでした。

昨年度は、入試の小論文をなくす方向でこの回でもお伝えさせていただいていた。入試委員会で小論文をなくすことが決定になり、どれだけの受験者数があるのかが未定ですが、定員数に届くように学校としても努力していきたいと思えます。

他校の関係者評価委員会を探求するという目標を入れていた。岸和田やベルランドなどは、年3回評価委員会を実施している。当校の在の状況では、年1回実施し、自己点検委員会なども充実切るようになれば愛数を増やし、教育活動の改善に努めていきたい。

令和5年度 自己点検・自己評価の結果(令和4年度との比較)

大項目	中項目	平均値	
		令和4年度	令和5年度
I. 教育理念・目的・育成人材像	【1-1】 理念・目的・育成人材像	2.65	3.05
II. 学校運営	【2-2】 運営方針	2.01	2.73
	【2-3】 事業計画		
	【2-4】 運営組織		
	【2-5】 人事・給与制度		
	【2-6】 意思決定システム		
	【2-7】 情報システム		
III. 教育活動	【3-8】 目標の設定	2.88	3.22
	【3-9】 教育方法・評価等		
	【3-10】 成績評価・単位認定等		
	【3-11】 資格・免許の取得の指導体制		
	【3-12】 教員・教員組織		
IV. 学修成果	【4-13】 就職率	2.73	3
	【4-14】 資格・免許の取得率		
	【4-15】 卒業生の社会的評価		
V. 学生支援	【5-16】 就職等進路	2.52	2.61
	【5-17】 中途退学への対応		
	【5-18】 学生相談		
	【5-19】 学生生活		
	【5-20】 保護者との連携		
	【5-21】 卒業生・社会人		
VI. 教育環境	【6-22】 施設・設備等	2.73	3.13
	【6-23】 学外実習・インターンシップ等		
	【6-24】 防災・安全管理		
VII. 学生の募集と受け入れ	【7-25】 学生募集活動	2.68	2.98
	【7-26】 入学選考		
	【7-27】 学納金		
VIII. 財務	【8-28】 財務基盤	1.55	1.58
	【8-29】 予算・収支計画		
	【8-30】 監査		
	【8-31】 財務情報の管理		
IX. 法令の遵守	【9-32】 関係法令・設置基準等の遵守	2.49	2.69
	【9-33】 個人情報保護		
	【9-34】 学校評価		
	【9-35】 教育情報の公開		
X. 社会貢献・地域貢献	【10-36】 社会貢献	1.9	2.07
	【10-37】 ボランティア活動		
合計		2.41	2.71

評価基準

1:わからない 2:そう思わない 3:どちらともいえない 4:そう思う

令和5年度 就職状況(第34期生)

	卒業生人数	割合数(%)	備考
卒業生数	33名	100%	
就職者数	32名	97%	
進学者数	1名	3%	助産師専門学校
国家試験合格者数	30名	91%	
実習関連施設就職者数	20名	61%	
実習関連施設以外就職者数	12名	36%	
岸和田市内就職者数	13名	39%	
岸和田市以外就職者数	19名	58%	
大阪市内就職者数	1名	3%	